令和3年度　基本施策評価シート

作成日	令和3年5月25日

基 本 施 策	G2　だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります			
施策の目的（対象と意図）	対　　象	意　　図		
	市民が	自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行ってる。		
長崎市第四次総合計画［後期基本計画］ 基本施策掲載ページ		221ページ　～222ページ		
基本施策主管課名	生涯学習課		所属長名	金原　久美子
関 係 課 名	市立図書館、恐竜博物館準備室、都市経営室			

基本施策の評価

Cc　目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

基本施策の成果指標3つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「C」とする。
個別施策の成果指標7つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】
（1）公民館等の生涯学習施設の利用者は、前年度より825千人の減であった。新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、施設の臨時休館、開館時間の短縮、主催事業の中止、施設利用の新規予約受付を中止したこと等が主な要因と考えられる。公民館講座参加者のアンケートでは、満足した参加者の割合は98%台と高い。また、市民意識調査においても、自主的な学習活動に取り組んでいる人の割合は増加している。
（2）市立図書館の利用者数は、前年度より177千人余減少した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休館や開館時間を短縮したこと、主催事業の中止や施設利用の新規予約受付を中止したことが主な要因と考えられる。
また、図書館での調べ物の楽しさを体験した参加者は、前年度より約37%減少した。図書館で開催するイベントと、閲覧室での展示等を連携させ、閲覧室に入る取組みを実施した。また、「子ども読書活動推進計画」に基づく取組みとして、図書館内でのおはなし会を実施した。このほかに、調べ物の楽しさを体験し、参加者を増やす取組みを実施した。
（3）JR長崎駅かもめ広場にて恐竜の全身骨格のレプリカを展示するとともに、会場内で恐竜に関する講演会を開催したことで、多くの市民が恐竜化石について興味関心を持つことにつながった。
（4）生涯学習に関する人材バンク登録者数は前年度とほぼ同数で、3人（1.8%）のみの減少であったが、地域の学習活動等への延べボランティア数は、コロナ禍の影響も受け前年度より1,119人（36.1%）減少した。

成 果 指 標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区 分		H29	H30	R元	R2	R3
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	38.7%（26年度）	⇧	目標値	40.0	41.0	42.0	43.0	40.0
			実績値	37.2	36.8	38.4	39.5	
			達成率	93.0%	89.8%	91.4%	91.9%	
生涯学習施設等の利用者数	2,740千人（26年度）	⇧	目標値	2,774	2,790	2,806	2,822	2,741
			実績値	2,649	2,739	2,498	1,673	
			達成率	95.5%	98.2%	89.0%	59.3%	
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	25.6%（27年度）	⇧	目標値	27.0	28.0	29.0	30.0	36.0
			実績値	24.6	23.4	33.9	30.2	
			達成率	91.1%	83.6%	116.9%	100.7%	

今後の取組方針

(1)市民のニーズに応じた学習環境の整備、学習機会の充実を図る方法として、特に、公民館、科学館、図書館、ふれあいセンター、さらに、10月に開館する恐竜博物館と様々な部分で横断的な連携を行い、市民が身近に感じることができる生涯学習施設になるよう努める。また、新型コロナウイルス感染症への対応として、各施設のガイドラインに基づき感染予防対策を確実に行いながら、市民の学習機会の充実に引き続き取り組んでいく。さらに、オンライン講座やオンデマンドによる講座などの配信を増やしていく。
(2)行政、地域団体などと連携して、地域課題を題材にした魅力的な講座等を企画し、講座を通じた仲間づくりを進める。主体的にまちづくりに参画していこうとする意欲を高めるため、講座で学んだことを生かせる機会や場所についても情報提供を行い、個人の学びを地域に還元することによって、活力ある地域社会づくりの促進を図る。
(3)公民館等の講座に関しては、参加者が固定化している傾向があるため、平日に参加することができない受講者のために土日、休日、夜間などに講座を実施することを検討するとともに、情報通信技術を活用したオンライン講座の実施やオンデマンドによる講座などの動画配信を行い、これまで公民館等を利用していない市民への利用促進を図る。

二次評価（施策評価会議による評価）

●基本施策の評価「Cc」については、所管評価のとおり。
●（G2-1）「図書館の運営」において、コロナの対応として、デジタル図書館整備に係る取組みを「令和2年度の取組概要」及び「評価（成果と効果）」を記載すること。また、除菌機等の導入についてもコロナ対応として記載すること。
●（G2-1）「若者がチャレンジできる仕組みづくり」について、今後の取組方針に繋がる問題点があるはずなので、「評価（問題点とその要因）」に記載すること。
●（G2-1）「公民館の取組み」については、オンライン講座を実施する公民館を増やしてくための人材育成などを含めて、具体的な内容を「今後の取組方針」に記載した方がよい。
●（G2-1）「恐竜博物館の建設」に係る「5年後にめざす姿に対する効果」については、建物が完成したことによる効果（学習するための拠点の創出となった等）を記載すること。
●「若者がチャレンジできる仕組みづくり」については、芸術文化体験やニュースポーツの振興など庁内で連携をしながら推進すること。

令和3年度　個別施策評価シート

個 別 施 策	G2-1　　学習に取り組める場と機会の充実を図ります			
施策の目的 （対象と意図）	対　　象	意　　図		
	市民が	身近な生涯学習施設で集い・交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題等を学んでいる。		
個別施策主管課名	生涯学習課		所属長名	金原　久美子

令和2年度の取組概要

①学習開放事業
・地域における生涯学習活動の拠点として、小学校3校の会議室等を開放した。
②講座開設の取組み
・地域住民の関心があるテーマに基づく講座を開催するほか、社会生活で直面する問題を解決するための講座を実施し、住民の教養の向上、情操の育成を図った。
・町立公民館、ふれあいセンターにおいても地域課題等について、その解決のための自主的学習をすすめるために講座に対する謝礼金や講師紹介等の補助を行った。
③図書館の運営
・市民や地域に役立つ情報拠点として、図書資料の系統的な収集、整理、貸出を行うほか、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」、「はじめまして絵本事業」、「図書館を使った調べる学習コンクール」など各種事業を実施した。
例えば、「図書館を使った調べる学習コンクール」は、図書館にある豊富な資料を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を再認識し、今後の図書館の利用促進を図るもので、令和2年度は106人の応募があった。
・コロナ禍における取組みとして、電子図書館の検討を行うとともに除菌機等の整備を図った。
④科学館の運営
・科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資するため、科学について体験を通して楽しく学習できる科学教室や、より多くの子どもたちに科学の不思議さや面白さを学ぶ機会を提供するため出前サイエンス教室を実施するなどの各種事業を行った。
・コロナ禍の中で、科学館の臨時休館や三密回避のため来館することができない子どもたちのために、HPで家庭でできる実験・工作を紹介することで科学に関する知識の普及を図った。
⑤恐竜化石等研究調査
・長崎半島にある白亜紀後期の三ツ瀬層（約8100万年前）から恐竜・翼竜等の化石が発見され、更に化石発見の可能性が高いことから、平成24年度から福井県立恐竜博物館と共同調査を実施しているところであり、多くの貴重な化石を発掘した。
・JR長崎駅かもめ広場において、恐竜の全身骨格のレプリカを展示するとともに、会場内で恐竜に関する講演会を開催した（9月25日～10月4日）。
⑥恐竜博物館の建設
・国内で初めて発見されたティラノサウルス科大型種の化石など、他では見られない長崎市産の恐竜を中核テーマとした特色のある博物館をめざして、博物館建設工事に着手した。（令和3年10月開館予定）
⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり
・15～34歳の若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場として「ながさき若者会議」を立ち上げ、その参加者を公募するなど、若者がチャレンジできる仕組みづくりに着手した。
・「ながさき若者会議」の参加者のチャレンジしたい企画等を引き出し、内容の具体化を図るため、計8回の会議（ワークショップ）を開催した。
・年度末には、「ながさき若者会議」の参加者が検討してきた企画や実施してきた活動等の周知を図り、企業や団体等から若者への支援を促進するため、オンライン発表会を開催した。

成 果 指 標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区 分		H29	H30	R元	R2	R3
公民館等の利用者数	1,331千人（26年度）	⇧	目標値	1,385	1,410	1,435	1,460	1,343
			実績値	1,333	1,357	1,207	808	
			達成率	96.2%	96.2%	84.1%	55.3%	
公民館等の講座や教室の参加者数	92,145人（26年度）	⇧	目標値	94,400	95,600	96,800	98,000	88,646
			実績値	86,829	95,995	85,830	30,621	
			達成率	92.0%	100.4%	88.7%	31.2%	
大型公民館における夜間、土日、休日に実施する公民館講座や教室の参加者数	10,268人（26年度）	⇧	目標値	10,800	11,100	11,400	11,700	13,505
			実績値	12,930	13,026	13,240	4,616	
			達成率	119.7%	117.4%	116.1%	39.5%	
公民館等で開催される講座の参加者のうち、満足した人の割合	93.7%（26年度）	⇧	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	98.0
			実績値	97.3	97.8	97.9	98.9	
			達成率	102.4%	102.9%	103.1%	104.1%	
ふれあいセンター等において実施された現代的課題・地域課題講座の件数	143件（26年度）	⇧	目標値	185	210	235	260	196
			実績値	182	246	205	135	
			達成率	98.4%	117.1%	87.2%	51.9%	

評価（成果と効果）

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①学習開放事業 ・市立学校の施設などを学校教育に支障のない範囲で、地域の人々の学習や研修の場として開放することで、3校の会議室等で延846回開放し9,357人が利用した。	市立学校の施設を学習や研修の場として開放することで、地域における生涯学習の活動が広がった。
②講座開設の取組み ・公民館講座を1,364回開催し、21,500人が参加した。 ・取組み例として、中央公民館では、新しいスタイルによる公民館講座としてシニア世代の男性を対象にした講座を開講し、その中で「Zoom」オンライン講座を実施するなど新たな取り組みを行い、受講者から好評を得た。 （「Zoom」オンライン講座2回実施、延べ10名参加） また、北公民館では、コロナ禍において、対面での講座開催が困難であるなか、You Tubeチャンネルを開催し、書道教室、つまみ細工、ガラス絵体験などの動画をオンデマンドで配信し、情報通信技術を取り入れた事業を展開した。（チャンネルにアップされた動画は25本、再生回数は2,700回超）	市民の関心があるタイムリーな講座を開催することで、課題解決のきっかけづくりや地域住民の教養の向上つながるとともに、情報通信技術を活用した講座配信を行い、新規利用者の開拓につながった。
③図書館の運営 ・来館者数　663,810人、貸出者数　347,037人、貸出冊数1,203,464冊の利用があった。 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施し106人の応募があった。また、学校で、調べ学習を行ったり、授業での成果をはかる一環に加えられたことで、全国コンクールで奨励賞２点を受賞するなど作品の質の向上につながった。 ・コロナ禍における取組みとして、電子図書館の検討を行うとともに除菌機等の整備を図った。	・市民や地域に役立つ情報拠点として、主催事業の開催に合わせ関連する図書を紹介することで、来館者と本を結びつける場が広がった。 ・調べる学習により、子どもは主体的に学ぼうとする意欲を持ち、自分なりのテーマを追究し、「情報を活用する力」、「情報リテラシーの力」を身につけることにつながる。また、人が生涯を通じて学ぶための大きな力になることから、生涯にわたる読書習慣につなげていく。

④科学館の運営 ・夏の特別企画展については、三密対策を充分に行い収蔵庫展を開催した（入場者数　12,365人）。 ・利用者数：66,717人（展示室：18,651人、プラネタリウム：14,173人、全天周映画：1,943人、観望会：2,904人、教室等：4,289人、クラブ等：310人、講演会・イベント：24,447人）	見て触れて学習できる企画展の開催により、科学に関する知識の普及・啓発の場としての利用が促進され、学びの環境・機会の充実につながった。
⑤恐竜化石等研究調査 ・福井県立恐竜博物館と共同で化石の発掘調査を行い、長崎における自然史の新しい学習資源となる283点の恐竜化石等を収集することができた。 ・恐竜化石についてのイベント及び講演会により、多くの市民が長崎の恐竜に興味関心を持つことにつながった。 ※参加者数 かもめ広場イベント（10日間合計）　7,012人 講演会（5回合計）　268人	・令和3年10月の恐竜博物館開館までに収集する化石の目標値である1,500点に対し、令和2年度までに1,656点の化石を収集している。 ・恐竜化石をテーマとしたイベント及び講演会の実施により、長崎の恐竜について、市民の興味関心が高まり、自ら学習する機会を創出することにつながった。
⑥恐竜博物館の建設 ・他にはない長崎独自のストーリーを活かした恐竜化石の展示に加え、調査・研究・保存の様子を実際に見て学ぶことができるオープンラボ等、魅力あふれる博物館の建設工事に着手した。	・長崎の自然史に係る新しい学習資源である恐竜化石について、市民が自ら興味を持ち、学習するための拠点の創出につながった。
⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり ・「ながさき若者会議」の参加者を公募した結果、30名の定員に対し70名からの応募があったことから、より多くの若者にチャレンジの機会を提供するため、55名に定員を拡充し活動を開始した。 ・「ながさき若者会議」の参加者が実現したいアイデアや企画を引き出し、その内容の具体化を図ったことで、８つのチームが編成され、それぞれのチームにおいて活動が生み出された。 ・「ながさき若者会議」の参加者が検討してきた企画や実施してきた活動等をお披露目するオンライン発表会を開催し、リアルタイムで約100名、オンデマンド（YouTubeの閲覧）で約400名が参加・視聴した。	・若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場を設けたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考えるきっかけとなった。

評価（問題点とその要因）

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①学習開放事業 ・学校施設の学習開放による利用内容が、コーラスや着付けなど公民館やふれあいセンターにおける活動と同種であることから、公民館、ふれあいセンターを含めたコミュニティ活動施設としての適正配置における地区毎の配置及び費用負担の公平性の観点から事業のあり方を検討する必要がある。	コミュニティ活動施設の適正配置を進めるうえで、公民館やふれあいセンターを利用しての生涯学習と学習開放事業の活動内容が同じ種類のものが多く、利用者にとっては使用料がかからない貸室という認識で学習開放の会場を選んでいることが要因と考えられる。
②講座開設の取組み ・公民館等において、各種講座を行っているが、参加者が固定化している傾向がある。 ・情報通信技術を活用した講座の参加者数や視聴回数が少ない。 ・オンライン講座等の実施に当たってのノウハウが不足している。	・これまで公民館等を利用していない市民にまずは足を運んでもらうための利用促進策が不足している。 ・情報通信技術を活用した講座についての周知不足や高齢者などデジタル機器に不慣れな市民が一定数存在することが要因と考えられる。 ・公民館等に集まっての対面形式による講座を主流としてきており、情報通信技術を活用した講座を開催するという意識が希薄であったため。
③図書館の運営 ・市立図書館の来館者数は、前年度より177,248人余減少した。 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」の参加校、応募者数ともに減少した。	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休館や開館時間の短縮に伴い、主催事業の中止や施設利用の新規予約受付を中止したことが主な要因と考えられる。 ・新型コロナウィルス感染拡大防止のために臨時休校が実施され、夏休みが短縮されたことに伴い、児童・生徒が自由研究等にあてる時間を取れなかったことが主な要因と考えられる。
④科学館の運営 ・特別展などの内容が偏りがちな傾向にある。	特別展などのイベント内容は、人気があり集客が期待できる内容になりがちなことが要因の一つと考えられる。
⑥恐竜化石等研究調査 ・長崎の恐竜を紹介し興味をもってもらうためイベント、講演会等を行っているが、一時的な参加ではなく、恐竜博物館の開館まで自ら継続して学ぶ機会やシステムの構築まで至っていない。	イベント等に参加し恐竜に興味を持った市民が、さらに継続して学びたいと考えたとき、どこに行けば情報を得られるか一見してわかるような、固定化した情報ツールが不足していることが要因と考えられる。
⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり ・「ながさき若者会議」において、参加者が実現したい企画内容の具体化は図られているが、その実現に向けた活動に対する支援体制が十分に整っているとは言えない。	「ながさき若者会議」の取組内容について企業や団体等への周知が十分ではなく、若者のチャレンジを支援する機運が醸成されていない。

今後の取組方針

①学習開放事業
・施設の使用料など、公民館との均衡を図るため、施設の有料化も考慮する。
②公民館の取組み
・多くの住民が仲間づくり、地域づくりを進めることができるように公民館運営審議会等の意見を聞きながら、公民館の事業を企画する。
・公民館講座の企画内容や周知方法について、さらに工夫し市民にアピールする。
・平日（昼）に参加することができない受講者のため、市民が気軽に集まりやすい日時（土日、休日、夜間など）での講座開催、足を運びたくなる講座の把握に引き続き努める。
・ふれあいセンター及び町立公民館に対して講座の講師情報の提供や講座の企画支援などを行い、より多くの講座が実施されるよう働きかけを行う。
・デジタル機器の活用に不安のある市民へのパソコン、スマートフォン講座などを充実させる。
・情報通信技術を活用した講座を増やすため、先行して実施している館のノウハウを各館で共有するとともに、オンライン講座等の周知に努める。
③図書館の運営
・親子で絵本を読むことにより、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるとともに、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」など各種事業に取り組む。
・「図書館を使った調べる学習コンクール」については、今後も作品の質の向上及び応募者数の増加を図るため、引き続き図書館において、調べる学習関連の講座等を実施するほか、関係部局と連携してより一層の周知を行う。
・コロナ禍における新しい読書環境について、書籍の除菌機を利用することで、利用者が安心して本を借りることができる環境の整備や、来館せずに読書ができる電子図書館の活用を積極的に進める。
④科学館の運営
・展示室を利用した実験やイベント等、新たな事業に取り組む。
・プラネタリウムや科学実験・工作による、見て、触れて科学の不思議さを学べる取組みについて、内容をさらに充実させる。
⑤恐竜化石等研究調査
・今後も発掘調査を継続して実施し、収蔵・研究に資する化石資料の数を増やす。また、博物館開館に対する市民の機運を高めるよう、イベント、講演会の開催及びメディアを通じた情報発信の充実を図る。
⑥恐竜博物館の建設
・長崎の自然史について、市民の学びの拠点となる恐竜博物館の建設を進める。
・博物館へ足を運べなくても、インターネットを通じて恐竜について学んだり、館内に収蔵する標本の情報を得ることができるような仕組みづくりを行う。
⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり
・「ながさき若者会議」の運営を継続するとともに、企業や団体等への周知・PRにより若者のチャレンジを支援する機運を醸成するなど、若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みをさらに充実させる。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	（事業名） 学校校舎開放関連運営費 【生涯学習課】 （事業目的） 市民に学校の会議室等を学校教育に支障のない範囲で地域に開放することにより、学習の機会を図る。 （事業概要） 市立小学校8校、中学校6校（令和2年度から事業の見直しにより小学校3校のみ）の会議室等を学校の運営時間外に市民に開放する。（平日：夜間。土・日・祝日：終日） 「長崎市立学校の施設の開放に関する規則」により、運営を各学校学習開放運営協議会へ委託している。	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	28,870 人	26,122 人
		実績値	23,938 人	9,357 人
		達成率	82.9 %	35.8 %
		決算（見込）額	1,562,021 円	713,010 円
		成果指標及び目標値の説明	利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 実績値28,305人（平成30年度）の2%増を目標値とした。	利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 山里小770人、諏訪小12,650人（令和元年度実績）、令和2年度から追加する桜町小12,650人（同規模の諏訪小を基に設定）、合計26,070人の2%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） 開放回数 1,711回 利用者数 23,938人 登録団体 117団体 （成果・課題等） 運営協議会の数は平成30年度と同じ14校であり、利用団体は117団体と増加している。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、利用団体の活動の自粛及び施設利用の新規予約受付を中止したことで、利用者数は4,367人減少、開放回数は116回の減少している。 近隣の公民館やふれあいセンターと同様に生涯学習の場として利用する施設として、開放のあり方について検討していく。	（取組実績） 開放回数 846回 利用者数 9,357人 登録団体 40団体 （成果・課題等） 事業の見直しに伴い、運営協議会の数は3校となり、利用団体数も減少した。 また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、利用団体の活動の自粛及び施設を休館したことで、利用者数、開放回数ともに減少している。 近隣の公民館やふれあいセンターと同様に生涯学習の場として利用する施設として、開放のあり方について検討していく。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-1】

<table>
<tr><th>No.</th><th>事業名・担当課・事業目的・概要</th><th>区分</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr>
<tr><td rowspan="10">2</td><td rowspan="10">（事業名）
科学館運営費

【生涯学習課】

（事業目的）
科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資する。

（事業概要）
長崎市科学館の管理運営。
平成22年度より指定管理者である長崎ダイヤモンドスタッフ（株）による運営。</td><td>実施年度</td><td colspan="2">継続</td></tr>
<tr><td>成果指標</td><td colspan="2">利用者数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>150,000　人</td><td>170,000　人</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>153,167　人</td><td>66,717　人</td></tr>
<tr><td>達成率</td><td>102.1　%</td><td>39.2　%</td></tr>
<tr><td>決算（見込）額</td><td>145,709,731　円</td><td>143,758,358　円</td></tr>
<tr><td>成果指標及び目標値の説明</td><td colspan="2">科学館を利用することで、事業目的が達成されると考えられることから、利用者数を成果指標とした。
各年度の利用者数を基に、目標値を設定した。</td></tr>
<tr><td>取組実績、成果・課題等</td><td>（取組実績）
・展示室　45,512人
・プラネタリウム　29,340人
・全天周映画　2,045人
・観望会　5,739人
・教室等　8,180人
・クラブ等　600人
・講演会、イベント　61,751人

（成果・課題等）
夏に開催したイベントの入場者数が伸びなかったこと、新型コロナ感染防止対策として令和2年3月4日から休館しており、春のイベントの開催を中止したことなどにより利用者数が減となったが、秋には科学館スタッフによる手作り企画展を開催し、企画展では過去最高の利用者数となった。
今後も、何度来ても楽しめるような工夫の継続と「数の成果」を追求するだけでなく、「質の成果」を追求する姿勢を持ち、科学館の設置目的に沿った運営に努める。</td><td>（取組実績）
・展示室　18,651人
・プラネタリウム　14,173人
・全天周映画　1,943人
・観望会　2,904人
・教室等　4,289人
・クラブ等　310人
・講演会、イベント　24,447人

（成果・課題等）
新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として大型イベントを中止したこと、シアターや展示室などの利用者定員を半分に制限したことなどにより利用者数が減となったが、ホームページにおいて、休校で家庭にいる子どもへ向けて実験・工作特集を掲載するなど、コロナ禍においてもできる取組みを工夫して行った。
今後も、何度来ても楽しめるような工夫の継続と、「数の成果」を追求するだけでなく、「質の成果」を追求する姿勢を持ち、科学館の設置目的に沿った運営に努める。</td></tr>
</table>

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
3	（事業名） 恐竜化石等研究調査費 【恐竜博物館準備室】 （事業目的） 白亜紀後期の三ツ瀬層（約8100万年前）の恐竜・翼竜化石が長崎市から発見され、今後も化石発見の可能性が高いと言われていることから、長崎における自然史の新しい学習資源とするため、化石の発掘・保存を行う。 （事業概要） 福井県立恐竜博物館との共同研究事業として、毎年1～2週間程度の発掘調査を行い、福井県立恐竜博物館において、剖出（周囲の砂岩等取り除く作業）・鑑定したのち、令和3年度に開館予定の（仮称）長崎恐竜博物館において保存、展示する。	実施年度	平成24年度～令和3年度	
		成果指標	動物化石標本の数	
		目標値	30　点	30　点
		実績値	248　点	283　点
		達成率	826.7　%	943.3　%
		決算（見込）額	8,975,816　円	6,894,457　円
		成果指標及び目標値の説明	発掘により出土し、剖出（周囲の砂岩等取り除く作業）・鑑定したのち、動物化石と判断された標本の数を成果指標とした。 目標値については、これまで見つかった動物化石をもとに、福井県立恐竜博物館の研究員と協議のうえ設定した。	
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） 発掘期間　4月15日～23日 5月14日～22日 剖出・鑑定　4月～3月 （成果・課題等） 前年度から引き続きクリーニング作業員の体制が確保できたことから、平成30年度発掘分までの鑑定が効率的に行われ、目標値を達成できた。 剖出・鑑定を終えていないものについて、引き続き作業を行う必要がある。 発見された化石等について、リストを作成し適切な保管を行うとともに、状況に応じて一般公開するなど、恐竜博物館の開館に向け市民の機運を盛り上げる取組みが必要である	（取組実績） 発掘期間　4月20日～25日 5月20日～25日 剖出・鑑定　4月～3月 （成果・課題等） 前年度から引き続きクリーニング作業員の体制が確保できたことから、平成31年度発掘分までの鑑定が効率的に行われ、目標値を達成できた。 剖出・鑑定を終えていないものについて、引き続き作業を行う必要がある。 発見された化石等について、リストを作成し適切な保管を行うとともに、状況に応じて一般公開するなど、恐竜博物館の開館に向け市民の機運を高める取組みが必要である。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
4	（事業名） 大型公民館講座開設費 【生涯学習課】 （事業目的） 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。 （事業概要） 市民の学習ニーズに応えるとともに、各大型公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。	実施年度	継続	
		成果指標	講座等利用者総計（人）	
		目標値	52,300 人	52,800 人
		実績値	48,397 人	18,766 人
		達成率	92.5 %	35.5 %
		決算（見込）額	8,089,826 円	4,043,240 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成30年度目標値の1%増を目標値とした。	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 令和元年度目標値の1%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ・講座等 47,754人（2,146回） ・研修会等 643人（12回） （成果・課題等） 目標値には達成しなかったが、年度の終盤に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった影響がある。講座に対する満足度は9割を超えているが、引き続き誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組みを行う必要がある。	（取組実績） ・講座等 18,584人（1,147回） ・研修会等 182人（7回） （成果・課題等） 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため講座等が中止となり、目標値には達成しなかったが、講座に対する満足度は9割を超えている。引き続き誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組みを行う必要がある。
5	（事業名） 地区公民館講座開設費 【生涯学習課】 （事業目的） 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。 （事業概要） 市民の学習ニーズに応えるとともに、各地区公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。	実施年度	継続	
		成果指標	講座等利用者総計（人）	
		目標値	13,500 人	13,600 人
		実績値	10,994 人	3,913 人
		達成率	81.4 %	28.8 %
		決算（見込）額	1,160,240 円	720,000 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成30年度目標値の1%増を目標値とした。	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 令和元年度目標値の1%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ・講座等 10,994人（560回） （ふれあいセンターへ移行した館を含む） （成果・課題等） 講座利用者は、昨年に比べ微減しているが、年度の終盤に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった影響がある。公民館講座に対する満足度は9割を超えているが、引き続き、学習に取り組める場と機会を提供したい。	（取組実績） ・講座等 3,913人（246回） （ふれあいセンターへ移行した館を含む） （成果・課題等） 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため講座等が中止となったことにより、講座利用者は、昨年に比べ減少しているが、公民館講座に対する満足度は9割を超えている。引き続き、学習に取り組める場と機会を提供したい。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
6	（事業名） 図書館を使った調べる学習コンクール事業 【市立図書館】 （事業目的） 図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進につなげていく。 （事業概要） 図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。	実施年度	継続	
		成果指標	図書館を使った調べる学習コンクールへの応募者数	
		目標値	270 人	270 人
		実績値	168 人	106 人
		達成率	62.2 %	39.3 %
		決算（見込）額	24,156 円	26,658 円
		成果指標及び目標値の説明	図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につながっていくため、応募者数を成果指標とした。 過去3年間の応募者数の平均値の5%増となる、270人を目標値とした。	図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につながっていくため、応募者数を成果指標とした。 過去3年間の応募者数の平均値の5%増となる、270人を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） 応募者数 168人 （内訳） 小学生低学年：43人 小学生中学年：71人 小学生高学年：40人 中学生：12人 （成果・課題等） 参加校は、小学校は2校減ったものの、中学校は前年並みとなった。応募の内訳では、小学校中学年が増加したものの、他の学年では減少した。 学校への周知は定着したものの、同様の募集があり応募が分散したことから、応募者数が減少する結果となった。 全国コンクールへ5点の作品を推薦したところ、1点が優良賞、1点が奨励賞、3点が佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。	（取組実績） 応募者数 106人 （内訳） 小学生低学年：26人 小学生中学年：32人 小学生高学年：32人 中学生：8人 （成果・課題等） 参加校は、小学校で2校、中学校で4校減った。応募の内訳では、小学校、中学年ともに減少した。これは、新型コロナウィルス感染拡大防止のために臨時休校が実施され、夏休みが短縮されたことに伴い、児童・生徒が自由研究等にあてる時間を取れなかったことにより、応募者数が減少する結果となった。 全国コンクールへ3点の作品を推薦したところ、2点が奨励賞、1点が佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2−1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
7	（事業名） 「長崎×若者」推進費 【都市経営室】 （事業目的） 若者から「選ばれるまち」を目指し、「若者が楽しむことができる場」、「若者がチャレンジできる場」をつくることで、「若者が楽しめ、活躍できるまち」とする。 （事業概要） 若者の楽しみに関する調査・分析結果に基づき、若者が楽しむことができる場を創出するとともに、若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みを構築する。	実施年度	令和2年度～令和4年度	
		成果指標	ながさき若者会議で実施されている活動の数	
		目標値	0.0 件	5.0 件
		実績値	0.0 件	8.0 件
		達成率	#DIV/0! %	160.0 %
		決算（見込）額	0 円	1,012,934 円
		成果指標及び目標値の説明		「ながさき若者会議で実施されている活動の数」は、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会につながるものと考えられるため成果指標とした。 また、当初想定していた参加者数（30名）では、5つ程度のチームが編成され、1チーム1件の活動が実施されると想定し、5件の活動が実施されていることを目標とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） （成果・課題等）	（取組実績） ・参加者の公募 70名応募（当初定員を30名としていたが、55名に拡充し実施中） ・会議（ワークショップ） 8回開催 ・活動の数 8件（8チームが活動） ・オンライン発表会 約100名が参加・視聴 （成果・課題等） ・15～34歳の若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場を設けたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会が創出された。 ・「ながさき若者会議」において、参加者が実現したい企画内容の具体化は図られているが、その実現に向けた活動に対する支援体制が十分に整っているとは言えないことから、若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みを充実させるとともに、そこから生まれた若者のチャレンジの実現に向けた支援を行う必要がある。

令和3年度　個別施策評価シート

個 別 施 策	G2-2　　能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります			
施策の目的（対象と意図）	対　　象	意　　図		
	市民が	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かしている。		
個別施策主管課名	生涯学習課		所属長名	金原　久美子

令和2年度の取組概要

①生涯学習における人材情報の把握
・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録について、各公民館に公民館講座の講師登録について協力依頼を行った。また、公民館の類似施設であるふれあいセンターに対しても、講師情報の提供を行った。
②ボランティアの活用
・地域住民が自ら公民館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、公民館支援ボランティアによる公民館講座での受付・案内、館外活動での受講者の誘導等の活動を実施した。
・中央公民館では公民館支援ボランティアによる講座の企画、立案、実施に取り組んだ。
・地域住民が自ら図書館等を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、図書の配架やクリッピング、イベントサポータ等の活動をボランティアにより実施した。

成　果　指　標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区　分		H29	H30	R元	R2	R3
生涯学習に関する人材バンク登録者数	283人（26年度）	⇧	目標値	293	297	301	305	234
			実績値	263	186	164	161	
			達成率	89.8%	62.6%	54.5%	52.8%	
地域の学習活動等への支援者数	3,004人（26年度）	⇧	目標値	3,240	3,360	3,480	3,600	3,102
			実績値	3,213	3,034	3,100	1,981	
			達成率	99.2%	90.3%	89.1%	55.0%	

評価（成果と効果）

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①生涯学習における人材情報の把握 ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録者については、前年度と同様の35人であった。	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かせる人材の確保につながった。
②ボランティアの活用 ・中央公民館においては、公民館支援ボランティアが企画・運営した講座（料理、手芸など）を平成30年度から継続して実施しており、活動者のモチベーションアップ、スキルアップにつながった。 ・ファミリープログラムファシリテーターの活動においては、主体的な活動内容に見直したところ、スキルアップ研修への意欲が高まる等の変化が見られた。	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かせる魅力的なボランティア活動につながった。

評価（問題点とその要因）

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①生涯学習における人材情報の充実 ・生涯学習に関する人材バンク登録者数は前年度より3人（1.8%）減少した。 （令和元年度：164人　→　令和２年度：161人）	・人材バンクに登録することで、広域的な活動や一定の質を求められる面があることから、現に講座での学びを生かし、身近な公民館で地域の講師として活躍している方にとっても、登録に対するハードルが高くなっている。 ・生活環境の変化や転居等で活動できなくなったことが、登録者数の減となった。
②ボランティアの活用 ・地域の学習活動等へのボランティア延参加者数は、コロナ禍の影響もあり、前年度より1,119人（36.1%）減少した。そのうち公民館支援ボランティアへの参加者数は208人（36.0%）減少し、科学館サイエンスサポーターへの参加者数は0人であった。 地域の学習活動等へのボランティア延参加者数 （令和元年度：3,100人　→　令和２年度：1,981人） 公民館支援ボランティアへの参加者数 （令和元年度：　577人　→　令和２年度：　369人） 科学館サイエンスサポーターへの参加者数 （令和元年度：　178人　→　令和２年度：　0人） 図書館ボランティアへの参加者数 （令和元年度：2,054人　→　令和２年度：1,529人）	・登録後も活動しやすい場所がないこと、どのような活動を行い、どのような目的で仕事をすればよいのか見えてこないことが問題である。 ・地域の学習活動等へのボランティア活動に対する関心を喚起させることが十分ではない。 ・満足感、充実感が得られる活動内容となっていない。

今後の取組方針

①生涯学習における人材情報の把握
・「学びあいサポートバンク」への登録制度について、引き続き公民館等での周知に取り組むとともに、登録とまではいかなくても身近な人材の情報把握や情報共有に努める。
・ファミリープログラムファシリテーターについて、令和元年度のように県と連携して研修会を開催するなど登録しやすい環境づくりに努める。
②ボランティアの活用
・ボランティアの登録者数を増加させるため、活動内容の紹介を随時行うとともに、活動しているボランティアが望んでいる活動内容を把握し、魅力的な活動となるように努める。
・コロナ禍で中止となった講座やイベントが再び実施できるように、感染症予防対策を確実に実施し安全な環境を整備することで、ボランティアの参加機会の創出につなげていく。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:G2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	（事業名） 生涯学習に関する人材情報の充実 【生涯学習課】 （事業目的） 講座や仕事等などで習得した知識や経験、技能を有する人材を市民の学習活動に活かすことにより、市民が学び合い、支えあい、いきいきと暮らすまちづくりに資する。 （事業概要） 自発的な意思によって学習活動等の支援を希望する個人又は団体の情報について、承諾された方については県のホームページで公表するとともに、講師になりうる人材の把握につとめ、市役所における講師人材情報提供の窓口としての役割を果たす。	実施年度	継続	
		成果指標	登録者数	
		目標値	301 人	305 人
		実績値	164 人	161 人
		達成率	54.5 %	52.8 %
		決算（見込）額	0 円	0 円
		成果指標及び目標値の説明	能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。 基準値283人（平成26年度）から令和2年度までに、約8%増の305人を目指しており、令和元年度は基準値の約7%増である301人を目標値とした。	能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。 基準値283人（平成26年度）から令和2年度までに、約8%増の305人を目指しており、令和2年度は基準値の約8%増である305人を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ファミリープログラムのファシリテーター認定研修会を県と共催し、登録者の増加に努めた。 （成果・課題等） 〇登録者数（市役所内の関係課が把握する人材） 164人 ・公民館等ボランティア 74人 ・いきいき地域連携強化推進事業サポーター 21人 ・市まなびあいサポートバンク 35人 ・ファミリープログラムファシリテーター 34人 生活環境の変化や転居等で活動できなくなったことや民間の団体の解散により、登録者数の減となった。生涯学習に関する人材バンク登録についての周知と登録しやすい環境づくりに継続して取り組む必要がある。	（取組実績） 昨年度に引き続きファミリープログラムのファシリテーター認定研修会を県と共催するため日程を調整したが、コロナの影響により研修会の開催をを中止した。 （成果・課題等） 〇登録者数（市役所内の関係課が把握する人材） 161人 ・公民館等ボランティア 75人 ・いきいき地域連携強化推進事業サポーター 21人 ・市まなびあいサポートバンク 35人 ・ファミリープログラムファシリテーター 30人 生涯学習に関する人材バンク登録についての周知と登録しやすい環境づくりに継続して取り組む必要がある。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
2	（事業名） 公民館支援ボランティアの活用 【生涯学習課】 （事業目的） 地域住民の活動拠点となる公民館において、住民参画型の公民館活動のより一層の充実と発展を図る。 地域住民のボランティア意識の高揚及び地域課題解決のための活動に参加・参画できる仕組みづくりを行う。 （事業概要） ボランティアに登録した方が次の活動を行う。 ・公民館講座での受付・案内 ・館外活動での受講者の誘導、安全確保 ・講座等の企画・運営 ・各種イベントの補助（サポート） ・公民館の環境整備、広報の補助	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数延人数	
		目標値	900 人	900 人
		実績値	577 人	369 人
		達成率	64.1 %	41.0 %
		決算（見込）額	194,380 円	137,710 円
		成果指標及び目標値の説明	公民館講座の企画運営に参画するボランティアの数を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動内容をもとに、実施可能人数を推定し毎年900人を目標値とした。	
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ・中央 142人（57回） ・東 33人（16回） ・西 66人（43回） ・南 124人（43回） ・北 18人（18回） ・滑石 194人（57回） （成果・課題等） 延参加者数は、目標値を達成できなかった。今後も引き続きボランティア登録者を増やすこと及び活動内容の周知を行うことにより、活動機会の増加を図る必要がある。また、地域の学習活動等へのボランティア活動に対す関心を喚起させるような内容を見直す必要がある。	（取組実績） ・中央 203人（98回） ・東 19人（10回） ・西 29人（19回） ・南 61人（21回） ・北 0人（ 0回） ・滑石 57人（20回） （成果・課題等） コロナ禍の影響もあり、活動者は昨年度に比べ大幅に減少した。今後も引き続きボランティア登録者を増やすこと及び活動内容の周知を行うことにより、活動機会の増加を図る必要がある。また、地域の学習活動等へのボランティア活動に対す関心を喚起させるような内容を見直す必要がある。
3	（事業名） 図書館ボランティアの活用 【市立図書館】 （事業目的） ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。 （事業概要） ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・図書の装備や配架 ※図書の装備とは、図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること。 ・新聞のクリッピング ・図書館等での読み聞かせ等	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	1,690 人	1,690 人
		実績値	2,054 人	1,529 人
		達成率	121.5 %	90.5 %
		決算（見込）額	47,250 円	38,150 円
		成果指標及び目標値の説明	ボランティア活動の状況を把握するため、参加者数（延人数）を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動実績をもとに、過去4年間の平均値を目標値とした。	ボランティア活動の状況を把握するため、参加者数（延人数）を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動実績をもとに、過去4年間の平均値を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ・配架 684人（263回） ・装備 684人（120回） ・クリッピング 234人（113回） ・読み聞かせ 184人（ 39回） ・イベントサポート 30人（ 23回） ・YA（学生）ボランティア 85人（ 48回） （成果・課題等） 図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装備や読み聞かせ等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。	（取組実績） ・配架 554人（206回） ・装備 702人（100回） ・クリッピング 222人（ 84回） ・読み聞かせ 0人（ 0回） ・イベントサポート 42人（ 19回） ・YA（学生）ボランティア 9人（ 11回） （成果・課題等） 図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装備や配架等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館や開館時間の短縮に伴い、自主イベントの中止や活動制限などにより、昨年度より減少した。